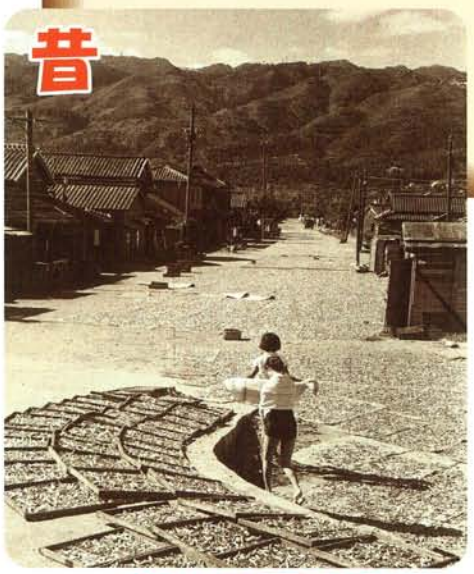
まちと
くらしのれきし

レジスター

深 江 の 浜
今と昔（札場通）

くらべてみよう



浜でイワシを干す（1950年代）

阪神・淡路大震災（1995年1月17日）以前

見学日　　年　　月　　日

なまえ

神戸深江生活文化史料館

神戸深江生活文化史料館について

神戸深江生活文化史料館は、まちかどにある小さな歴史博物館です。深江は大昔から人が住んでいた所で、その歴史を調べていくうちに、たくさんの資料（農家で使っていたもの、漁師さんが使っていたもの、学校で使っていたもの、食器、おもちゃ、きもの、電化製品、古い記録や新聞など）が出てきました。それらをみなさんに見てもらおうと、昭和56年(1981)深江財産区の人たちによって、この史料館はたてられました。

ここには、大昔のものから、みなさんのおじいさん、おばあさんがふだん使っていたものまで、いろいろなものを展示しています。また、昔のことを調べるための本などもおいてあります。古いものをじっくり見たり、本でたしかめたりしながら、昔のことを調べてください。そして、わからないことがあれば、史料館の先生に聞いてください。

この史料館に置いてある物は、すべて大切な「歴史のしょうこひん」です。見学する時には、次の三つのやくそくをかならず守ってください。

見学のときに守ってほしい３つのやくそく

1：展示しているものにはぜったいにさわらないでください。

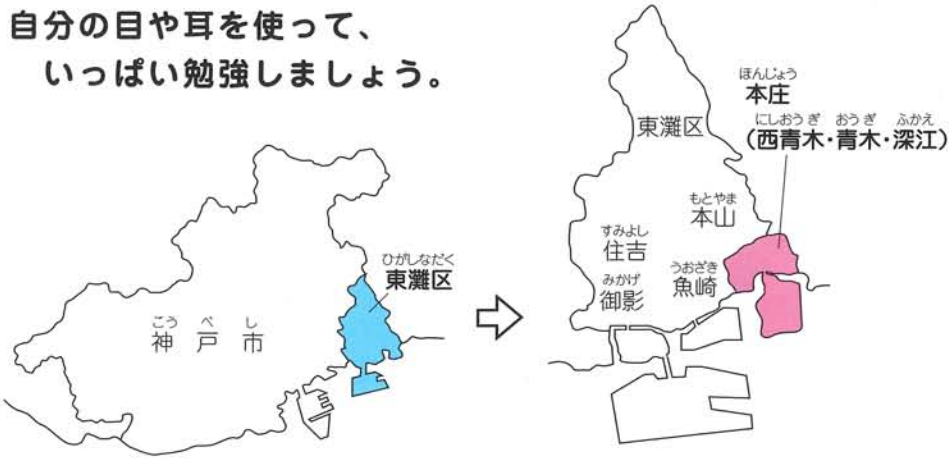
2：展示ケースにもたれかかったり、ケースの上で字を書かないでください。

3：史料館の中を走りまわらないようにしてください。

◀ 農具の展示

漁具の展示 ▶

さあ、自分の目や耳を使って、いっぱい勉強しましょう。



※表紙・昔：喜多一晴氏 撮影

まちのうつりかわり

深江のあたりには、約2000年前から人が住んでいました。そのころのおはかが史料館の東がわや、本庄小学校から出てきています。そして、今の深江の村の形ができたのは、約500年前だといわれています。

徳川の将軍が江戸にいたころ、深江の周辺では、いろいろな産業がさかんになってきました。山では住吉川の上流にある採石場からとった石を「御影石」として日本中に売り出しました。きれいな水を生かしてお酒も造られ、「灘の生一本」としてゆうめいになりました。

明治時代になると外国との行き来がさかんになり、港も大きくなりました。また、東海道本線・阪神電車・阪急電車なども通り、交通がべんりになりました。工場もふえ、多くの人が集まってきました。しかし、昭和13年（1938）の阪神大水害では、住吉川がはんらんし、家や田畑が水につかり、多くの人がなくなりました。さらに、昭和16年（1941）からはじまった第2次世界大戦では、空襲でたくさんの人がなくなり、多くのたてものがやけてしまいました。

空襲でやけた本庄小学校

戦争がおわってからは、やけ野原になった町をもとどおりにするために、みんなが力を合わせました。昭和25年（1950）には、東灘あたりの村々が、神戸市とがっぺいして神戸市東灘区とよばれるようになりました。このころから、少しずつ田畑もなくなり、家がたくさんたてられました。阪神高速などもでき、大阪と神戸をつなぐたいせつな町としてはってんしてきました。

平成7年（1995）1月17日におきた阪神・淡路大震災では、たくさんの人がなくなり、多くのたてものがつぶれました。しかし、この時もたくさんのボランティアの人が全国から集まり、みんなで力を合わせてがんばりました。そして今も、もっとくらしやすい町にするために、たくさんの人たちががんばっています。

「1966年　本庄小学校卒業アルバム」より

●昔、仕事に使っていたもの

江戸時代（今から350年前くらい）、深江の村の人たちは、農業や漁業をしてくらしていました。史料館では、農業のときに使った道具と漁業のときに使った道具を展示しています。

農具

犂
牛にひかせて土をたがやす

田植枠
田植えをするのに使うものさし

千歯こき
稲から実をおとす

唐箕
風をおこして、実からごみやからをとばしておとす

回転除草機
田の雑草をかる

漁具

深江の浜では昭和30年代のおわりに浜のうめたてがはじまるまで、きれいな砂浜があり、たくさんの漁師さんが魚をとって生活していました。

モンドリカゴ
エサを入れて魚の通り道にしかけるワナ（アナゴ用）

蛸壺
なわでつないで海にしずめておくとタコが入る

とれたイワシをはこんでいる様子

ケ　タ　海中の底をひっかいて貝をとる
ウ　キ　海中にはるあみにつける
オモリ　あみの下にはおもりをつける

●食事の部屋

わらぶき屋根の小さな家はむかしのごはんを食べる部屋のようすをあらわしています。火をたくいろりがあり、ちゃぶ台の上には、トースターや缶切りなどが置いてあり、あんかや湯たんぽも展示しています。また、教科書などにでてくるせんたく板とたらいもあります。近づいてよく見てみましょう。

ちゃぶ台

いろりのコーナー

しちりん

氷の冷蔵庫

●昔、くらしに使っていたもの

史料館には、みんなのひいおじいさんやひいおばあさんの時代に使われていたたくさんの道具が展示してあります。

今のものとどこがちがうかな？

アイロン

火のし

炭火アイロン

こて

電気アイロン

ごはんの道具

羽釜（ごはんをたく）

おひつ

暖をとる道具

火ばち

湯たんぽ

安全こたつ

電気あんか

カイロ

昔のバケツ、今のバケツ

かたちや大きさは同じでも材料が変わりました。

木のバケツ

銅のバケツ

ブリキのバケツ

ポリバケツ

オーディオ

蓄音機

ラジオ

テープレコーダー

カセットテープレコーダー

ブラウン管テレビ

電　話

ダイヤル式電話

プッシュホン式電話

ポケットベル

●ままごと道具

水道のない時代、井戸があります

ガスコンロがあります

●教科書にのっている昔の道具

糸車

いろり

石うす

木うす

くわ

おぜん

とっくり

水がめ

たばこ盆（ぼん）

防空ずきん

●生き続ける知恵

手洗いタンク（つりちょうずともいいます）

阪神・淡路大震災と史料館

平成7年（1995）1月17日午前5時46分、阪神・淡路大震災がおこり、史料館のある深江も大きな被害をうけました。阪神高速が何百メートルにもわたってよこだおしになったところも、この史料館のすぐ南がわの場所です。史料館のとなりにある大日神社のおやしろもこの地震で完全につぶれてしまいました。史料館のたてものはぶじでしたが、展示ケースがたおれたり、ガラスがわれたり、中に展示してあった資料がちらばったりしていました。そのため、地震のあと、その年の10月21日まで史料館をあけることができませんでした。

近くの古いおうちもたくさんこわれてしまい、そこにうずまった古い道具などをのこしてほしいというねがいがあり、史料館の人たちが手分けをして、資料をたすけだしました。その資料は、そのかたがたのご好意で、史料館にいただけることになりました。

地震でこわれた資料

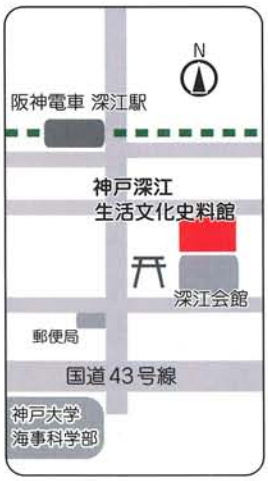
見学をおえて

史料館を見学して、みなさんはどんな感想をもちましたか。

しゃしんや本で見たものが、この史料館にはたくさんあったと思います。ここにあるたくさんの古い資料の一つ一つが歴史の生き証人なのです。歴史を学ぶことはことばをおぼえることだけではありません。このような古い資料に関心をもって、みんなのまわりにあるむかしのものごとにたくさんふれていくことが、歴史を好きになるちかみちだと思います。これからも、いろいろなむかしのものにきょうみをもってください。

きょう史料館で学んだことをおうちの方にも話してみましょう。そして、もっとゆっくりと見学したいという人は、おうちの人といっしょにきてください。史料館は毎週土曜日と日曜日の朝10時から夕方の4時半まであいています。ホームページもありますので見てください。

http://homepage2.nifty.com/fukae-museum/



まちとくらしのれきし

ー神戸深江生活文化史料館子供用パンフレットー

平成25年5月1日改訂版発行

執筆・編集：松下　修（三田市立小学校教員）
道谷　卓（史料館副館長）
水口千里（史料館研究員）
高田祐一（史料館研究員）

写真撮影：藤川祐作（史料館研究員）

発　　行：神戸深江生活文化史料館
神戸市東灘区深江本町3-5-7
TEL.(078)453-4980

http://homepage2.nifty.com/fukae-museum/

開館日　土・日曜日　10:00～17:00（入館は16:30まで）